



生地のもっちり感を楽しむにはぜひ常温で。オープンで表面だけ焼けば黒胡麻の香ばしさがアップ。この時期、BBQでちょっと焼いたデザートにも最適です。

弾けて広がる胡麻の香り、食感を味わう黒の生ハッ橋。

なめらかな餡を包む生地に黒胡麻を練り込み、着色ではない天然の「黒」を実現した御殿ブランドの「黒胡麻 ふくさ」。その生地だけを重ね、くるとたたんだのが「黒胡麻生ハッ橋」です。思えば元来、生地のおもろさや風味をシンプルに味わうのがハッ橋の醍醐味。「生地で勝負」という、ハッ橋職人の気持ちが伝わります。ぷちんと口の中で弾ける黒胡麻のつぶと香ばしさが、求肥のように柔らかで弾力ある美味しさを引き立てます。

生地に練り込むのは、脂分が少なく風味の高い黒胡麻。話題の抗酸化成分・セザミンがたっぷりのサプリメントハッ橋をどうぞ。

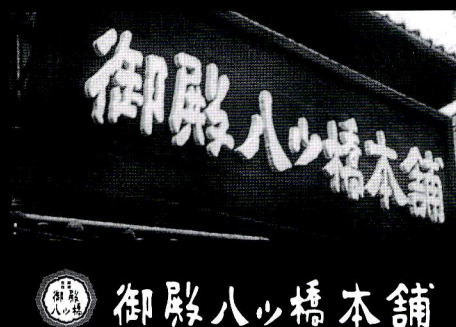


黒胡麻生ハッ橋

■12枚入り
■日持ち/常温で20日間

480円(税込)

清水寺、嵐山などの観光地で
お買い求め下さい。



〒606-8340 京都市左京区吉田下阿達町20
TEL.075(771)0307(代) FAX.075(752)0895

<http://www.goten8284.jp/>

POWER PLAYSOUND

Music is moistened our life.
Tasteful album is here.
We'd like to find your recommended one.



THE イナズマ戦隊

嗚呼!! されど青春ごっこ
THE イナズマ戦隊

CROWN STONES
CRCP-10145 1200円(税込)

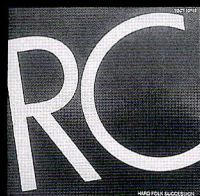
写真右から中田俊哉 (B)・上中丈弥 (Vo)・山田武郎 (G)・久保裕行 (D) による4ピースバンドの本格派。フロントマンは全員大阪府堺市出身、揃って北海道酪農学園大学に進学、当地で久保をスカウトし97年に活動スタート、'03年2月メジャーデビュー。

11/27「奈良ネバーランド」・11/28「大津B」
11/30「姫路Beta」・12/19「神戸VART」
12/20「KYOTO MUSE」でライブ予定。

<http://www.crownrecord.co.jp/artist/inasen/>



去る5月10日にリリースされたマキシシングル「五月雨」に続き、今年はシングル乱れ騒ぎもイヤ。タイトル曲はホンンセッションを加えた「イチニニツ・サンツ・シツ!!」的な勢いのあるリズムのチューン。「勇み足上等、つんのめっても胸はって足上げてこーぜ」という感じの、むしろ「ごっこ」不要の青春ナンバー。8月9日リリース。



01
recommended

HARD FOLK SECUSSION /RCサクセション

東芝EMI 2000円(税込)

「オレ、こんなにバカだから、キミももっとがんばれるよ」という同バンドの歌詞の世界を表すところというアルバムになるのだろうか。悪野流、ティーンエイジの叫びと泣き、を集めたような、プリミティブな一枚



like a rolling stone

02
recommended

LIKE A ROLLING STONE /THE ROLLING STONES

輸入盤
これぞ「外しの美学」。同曲収録の「Stripped」というアルバムが有名だが、「オススメは、敢えてシングル。」「Unplugged」アムをヒネッタ一枚の、さらにヒネッタ一曲をチョイス。確かに聴きにくい名曲

The Mooney Suzuki Alive & Amplified



03
recommended

スズキはヤル気
/ザ・ムーニー・スズキ

Sony Music Japan 2520円(税込)
聴いた感じでは遊んでいるようには思えない、正統派ロックなのだが、ヒネリが利いているらしい。「本当にロックが好きなたちが、現代目線で遊んでるんですよ。とにかくイッ」という謙手を挙げた絶賛の一枚

恥ずかしいけど、隠すものはない。
バカになれるのは、きっと強いからだ。

「(Voの) 上中は、簡単に言うとうるふずのトータス松本さんのような『魂込め系』。(Gの) 山田は『THE WHO』のビート・タウンゼントとか、『THE ROLLING STONES』のキースが好き。今年正統派なギターヒーロー。(Bの) 中田は楽器を始めるというときにサクスを買ったような(笑)、リアルな不思議さを持っています(笑)」と、メンバーで唯一関西人ではない久保裕行は言う。本人は以外と生真面目なタイプらしい。

もしや? と思って尋ねてみたら案の定。「はい。最初は『どうして曲作りにオチが要るの?』と(笑)。関西人と初めて付き合うとき、誰もが思うことだ。今は全く迷いはないし、むしろそこはバンドの本質があると思ってる」。

「恰好よく、でもキザはナシ。恥ずかしいんですけど、隠すものはない。『精一杯、恰好つけたつもり』のときに、ポッカーあいてる穴が愛しいんです。ダラダラと物語を綴るより、センテンスの羅列の方が、彼らを上手く説明できるかもしれない。「プライドは捨てないが、コンセプトに縛られることもない」「泣き系が好きなのは、アルバムから泣き系を集めて聴いて下さい」「みんなが良いと思うものが全部入ってるのがアルバム。捨て曲ナシで常に『ベスト(盤)人生』」「シングルは名刺。リスクもあるけど現時点の乾坤一擲をプレスする」…

難解なロックが多くなった今、きっと世の中は「みんなが唄えて踊れる、解りやすく聴きやすいロック」に気づき始める。イヤなことがあっても、明日から、始めましょう。僕らは起爆剤。アナタのエンジンにはなれないけど、ガソリンくらいにはなれる。きっと本音なのだろうが、「60歳になっても、焼肉食べに行ったらタレだけでゴハン一膳行きたいっすね〜」とケロリと言う彼らは、気づいていないかもしれない。ガソリンがなければ、エンジンは回らないのだ。強くなければ、バカにはなれない。

例えて言うなら、「汗かきなクールガイ」。だから意外とメロウで、ビートの中にホロリが隠れているかもしれないぞ。